

特別展

カイコと

くらしたむかし



関連企画

- **マユの工作** 参加費：300円(当日受付)
日時 2/13(土)、14(日) 10:00~12:00・13:00~15:00
場所 博物館本館1階体験学習室
- **マユから糸をとろう** 参加費無料
日時 2/13(土)、14(日)、3/6(日)、12(土) 10:00~12:00 / 13:00~15:00
場所 博物館本館1階体験学習室
- **学芸員による展示解説** 参加費無料
日時 2/27(土)、28(日)、3/12(土) 13:00~



2016年

2.6(土) - 3.13(日)

府中市郷土の森博物館

〒183-0026 東京都府中市南町 6-32 TEL 042-368-7921
<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>

●会場 本館1階特別展示室 ●開館時間 9:00 ~ 17:00(入場は16:00まで)
●観覧料 大人200円 中学生以下100円 4歳未満無料(博物館入場料として)
※会期中の休館日はありません。
●主催 公益財団法人府中文化振興財団

2/6 ~ 3/13は郷土の森まつり



カイコという虫をそだて、マユをつくる仕事を養蚕といいます。マユからは糸がとれ、布の材料となるため、カイコをそだてる仕事は人びとの生活に必要なものでした。

府中でも養蚕はさかんに行われていました。いまから120～130年前の明治時代には、カイコをそだてる家がふえ、エサとなるクワの畑があたり一面に広がっていました。カイコのそだちをよくするために、家のリフォームをしたり、カイコの仕事がいそがしいので、年中行事のスケジュールを変えたりすることまでありました。

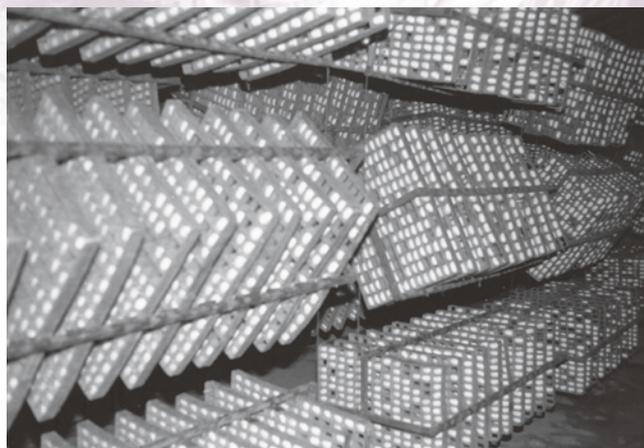
現在では、仕事としてカイコをそだてている家は1軒もなく、クワの畑もなくなってしまいました。しかし、今でもカイコとくらししたことをおぼえている人はたくさんいます。博物館にはカイコをそだてるための道具もたくさん残っています。

この展示では、いまではなくなってしまったカイコとくらししたむかしを、博物館に再現します。もちろん、カイコがどうやってマユになるかも、あわせて紹介します。カイコをそだて、マユから糸にしていくむかしの人びとの知恵と工夫を、ぜひ見に来てください。

ただし、生きているカイコに会うことはできません(^^)。

展示構成

- 1 カイコをそだてる～養蚕～
- 2 カイコの種類
 - 2-1 カイコもいろいろ
 - 2-2 カイコのタマゴをつくる
- 3 カイコをマユにする
 - 3-1 カイコが生まれる
 - 3-2 カイコのエサをとる
 - 3-3 カイコが成長する
 - 3-4 マユになる
 - 3-5 よいマユになるおまじない
- 4 マユのゆくえ
 - 4-1 マユを送り出す
 - 4-2 糸をとる
 - 4-3 ハタをおる
- 5 えがかれた養蚕
- 6 カイコとくらししてここが変わった
 - 6-1 クワ畑がふえた
 - 6-2 カイコのために家をリフォーム
 - 6-3 カイコのためにお盆も変えた
 - 6-4 カイコのための家ができた
- 7 カイコがいなくなった



「回転マブシ」というカイコがマユになるための格子に、ぎっしりとマユがつまっている(昭和40年代)

府中市郷土の森博物館

〒183-0026 東京都府中市南町6-32 TEL 042-368-7921
<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>

交通アクセス※ご来場の際は、電車・バスをご利用ください

路線バス

- 京王線・JR南武線「分倍河原駅」南側ロータリーから「郷土の森総合体育館」行きバス約6分「郷土の森正門前」下車すぐ

府中コミュニティバス(ちゅうバス)

- 京王線・JR南武線「分倍河原駅」または京王線「府中駅」から南町・四谷循環バス「南町二丁目」下車徒歩約6分
- 京王線「中河原駅」から南町・四谷循環バス「府中駅」行き「芝間稻荷神社」下車徒歩約6分

徒歩

- 京王線・JR南武線「分倍河原駅」より約20分
- JR武蔵野線・南武線「府中本町駅」より約20分
- 西武多摩川線「是政駅」より約20分

分倍河原駅 「郷土の森総合体育館」行き バス時刻表	
平日	土・日・祝日
8 2 25 50	0 24 50
9 20 50	5 20 35 50
10 20 50	5 20 35 50
11 20 50	5 20 50
12 20 50	20 50
13 20 50	20 35 50
14 20 50	5 20 35 50
15 20 50	5 20 35 50

赤字の時刻は「郷土の森梅まつり」(展示会と同会期)の臨時増発便です

